

平成 29 年(2017 年)9 月 1 日

長野県病害虫防除所

病害虫発生予察特殊報 第 1 号

害 虫 名 : テンサイシストセンチュウ

学 名 : *Heterodera schachtii* A. Schmidt

作 物 名 : アブラナ属野菜

1 発生経過

諏訪郡原村で栽培されているアブラナ属野菜の生育不良株からシストセンチュウが発見されたことから、農林水産省植物防疫所において線虫の同定を実施したところ、平成 29 年 9 月 1 日に国内ではこれまで未発生のテンサイシストセンチュウであることが確認された。

2 形態

雌成虫の体長は 0.6~0.9mm。発育し肥大化すると両端が尖ったレモン型の形状になり、その後卵を内包した褐色のシストとなる。雄成虫は糸状。

3 生態

シスト中の卵の状態越冬し、地温上昇に伴い寄主植物の根から分泌されるふ化促進物質によりふ化し、根に侵入する。侵入後、植物細胞組織を巨大化させ、そこから養分を吸収する。

雌成虫は先端部を根に埋め込み虫体を肥大させる。その後、雄成虫と交尾して 500~600 の卵を形成し、卵を内包したまま体表が硬化して褐色のシストとなる。根から脱落したシストは土壤中に生存し、寄主植物がなくても長期にわたって乾燥や低温等に耐える。

4 被害及び寄主植物

【被害】

線虫の侵入により、植物体への養水分の吸収が阻害される。テンサイでは生育の遅れや黄化症状、地上部のしおれなどがみられ、枯死する場合もある。被害株の地下部はひげ根が異常に増え、貯蔵根が奇形となり収量が著しく低下する。

アブラナ属野菜では、地上部の生育遅延や生育不良がみられる。

【寄主植物】

フダンソウ属 (テンサイ等)、アブラナ属植物 (キャベツ等) 及びシヨクヨウダイオウの生植物の地下部

5 防除対策

- (1) まん延防止のため、使用した農機具等を移動する前に必ず泥を落とし洗浄を実施する。また、洗浄水は、他のほ場へ流入することのないよう留意する。
- (2) 栽培残さ及び収穫残さは、圃場外への搬出は行わない。
- (3) 発生ほ場では、寄主植物の栽培を避ける。寄主植物以外の作物により 5～6 年輪作を実施する。利用する作物は 2 種類以上で効果が高い。
- (4) 発生ほ場では、土壌消毒を実施する。

6 連絡先

本線虫が疑われる症状を見つけた場合は、最寄りの農業改良普及センターまたは病害虫防除所までご連絡をお願いします。

長野県病害虫防除所中南信担当

上杉壽和（所長）

桑澤久仁厚（次長） 伊藤博之（担当）

電話 0263-53-5642 FAX 0263-54-4508

E-Mail bojo-y@pref.nagano.lg.jp